

## 第6学年2組 国語科学習指導案

場 所 6年2組 教室  
指導者 教諭 庄司 慶裕

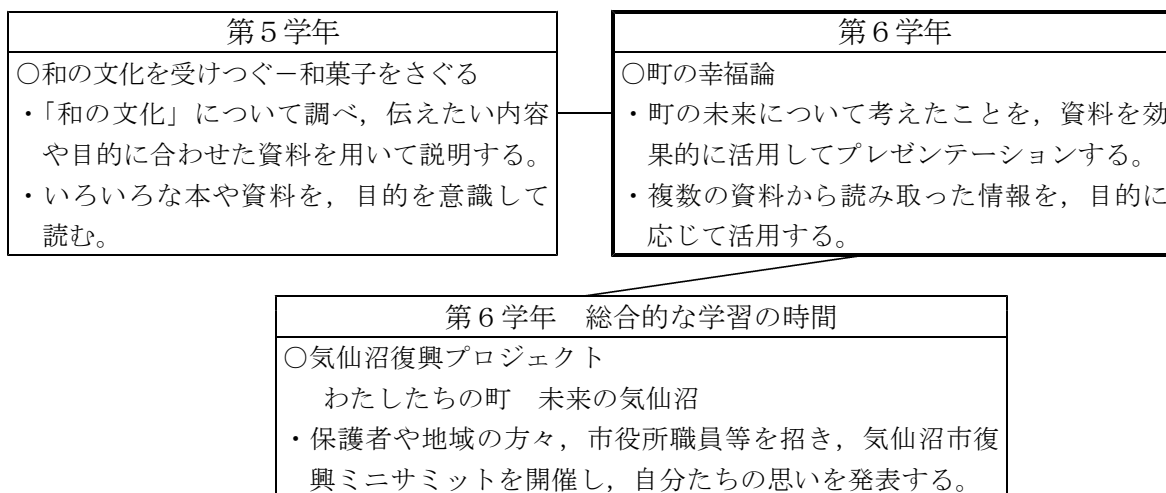
### 1 単元名 「町の未来をえがこう『町の幸福論』」

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の内容「A 話すこと・聞くこと」の内容(1)「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」及び、「C 読むこと」の(1)「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」を受けて設定した。

本教材では、図や表などを用いて説明する方法を「町の幸福論」から学び、そのことに基づいて、自分で図表や資料を活用して町の未来について発表することをねらいとしている。本単元では、「自分たちの住んでいる町の未来についてプレゼンテーションを行う」言語活動を設定している。学んだことを活用する場として、総合的な学習の時間と関連付けて、学習を進める。総合的な学習の時間に、未来の気仙沼について調べたり見学したりし、そのことについてプレゼンテーションづくりを行っていくことで、国語科で学んだことを活用する機会となり、より主体的な取組が期待できる。最終的には保護者や地域住民を招待し、子どもたちのプレゼンテーションを聞いていただく「気仙沼復興ミニサミット」を2月に開催する予定である。



本教材文は、コミュニティデザインという考えの紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとめも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置されているため、後の表現活動に活用することができる。よりよいプレゼンテーションを行うために、まずは、情報を集める力が必要となる。また、集めた情報を発表の目的に合わせて取捨選択したり、加工したりする力が大切になってくる。そうした学習を通して、その情報をいかに効果的に見せ、説明するかというプレゼン

テーションに必要な力とともに、複数の資料から読み取った情報を効果的に活用できる力を育てるようにしていきたい。

また、聞き手の理解を深めるために、話し方や資料の選び方、更にはその提示の仕方などについて工夫させたい。話し手が一方的に説明するのではなく、聞き手の反応を確かめながら、表情や目配り、時間配分などにも留意しながら話すことを意識させたい。

## (2) 児童の実態 (男子15名 女子14名 計29名)

本学級の児童は、課題に対して最後まで意欲的に取り組むことができる。昨年度からクラス編成もないため、男女問わず仲が良く、様々な話をする様子が見られる。授業中のペア学習やグループ学習でも意欲的に自分の考えを発表したり、注意深く友達の考えを聞いたりすることができている。国語科の「話すこと・聞くこと」領域の学習に関する意識調査(9月実施)によると、学級全体の89%に当たる26人の児童が「国語の学習が好き・どちらかというところが好き」と回答している。「友達の考えを聞くことにより、自分の考えが深まることがあるか」という質問に対しては80%に当たる23人の児童が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。また、「授業中に友達の考えと自分の考えを比べながら聞いているか」という質問に対しても80%に当たる23人の児童が「そう思う・だいたいそう思う」と回答しており、話し合うことについてはほとんどの児童が大切だと感じ、意欲的に取り組んでいる。対話的な学びを通して自分の考えが深まったり広がったりした経験を積み重ねてきたことが成果として現れている。

しかし、全員の前で話すことが苦手な児童が多くおり、アンケートでも14人が全員の前で話すことが好きではないと答えている。このことから、自分の考えを意欲的、積極的に発表したり、友達の意見に対して適切な意見を言ったりすることを意図的に学習に位置付けていくことが肝要である。

児童はこれまでに、「意見と理由とのつながりを聞き取ろう」(6月)の学習で事実と意見に注意して発表者の考えを読み取って自分の考えを持ったり、読み手を説得するための工夫を読み取ったりしてきた。しかし、図表などを用いて、自分の考えを発表する学習は十分ではない。

これらのことを踏まえ、本単元では、図表を使って聞き手にとって分かりやすい発表の仕方の工夫について学び、自分たちの意見や考えを交えながら未来の気仙沼についてのプレゼンテーションを考えさせていきたい。

## (3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

### 【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 目的意識を高めるとともに学習の見通しを持たせるために保護者や地域の方々を招き、気仙沼復興ミニサミットを開くということを単元の初めに知らせる。
- イ 図表等を用いた発表を意欲を持って行わせるために、プレゼンテーションソフトを使って発表の準備に取り組ませる。
- イ 聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方に気付かせるために、対話的な学びのモデル図の「拡大」と「融合」に重点を置き、自分の考えを見直したり、他者に伝えたりする場面を確保する。
- イ 児童の気付きを促し、対話的な学びが展開されるようにするために、教師がプ

プレゼンテーションのモデルを提示し、よさや改善点について気付かせ、対話を誘発させるようにする。

ウ 学びの成果を実感させるために、学んだことを生かし、実際に自分たちで発表原稿や資料を考えたり、加工したりする時間を設ける。

ウ 次時以降の学習意欲を向上させるために、「何を学んだか」「どんなことを次の学習に生かせそうか」といった視点で振り返りを書かせる。

### 【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

ア 資料等を使ったスピーチやプレゼンテーションに慣れさせるために、朝の会や帰りの会に様々な題でスピーチをする時間を設ける。

イ 必要な文言や数値などを引用させたり、図解させたりする力を付けるために新聞記事を使った家庭学習を取り入れる。

## 3 目標

### (1) 単元の目標

- ・複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用することができる。
- ・意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。

### (2) 観点別目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	・自分たちの町の未来に関心を持ち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとする。
話すこと・聞くこと	・収集した知識や情報を分類して、整理することができる。 ・目的に応じて話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話すことができる。 ・話し手の考え方を理解し、自分の意見と比べながら聞くことができる。
読むこと	・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫することができる。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。 ・目的に応じて、複数の本や資料を選び、比べて読むことができる。
伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項	・目的に応じた文章の構成について理解することができる。

## 4 指導と評価の計画（13時間扱い 本時 10 / 13時間）

次	主 な 学 習 活 動	時間	評 価 規 準	家庭学習との関連
1	習得 教科書を読み「自分たちの町の未来についてプレゼンテーションをする」という学習課題を確かめる。	1	【関】 教材文の内容に関心を持ち、プレゼンテーションをするという学習課題を確か	プレゼンテーションスキルを身に付ける学習プリントに取り組ませる。

				め、進んで学習に取り組もうとしている。	
2	習得	<p>本文を通読し、序論・本論・結論の文章構成を捉える。</p> <p>文章の内容を読み取るとともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確認する。</p> <p>文章の要旨を捉え、町の未来について自分の考えをもつ。</p> <p style="text-align: right;">「拡大」レベル2</p>	4	<p><b>【読】</b></p> <p>目的を意識して、効果的な読み方を工夫して文章を読んでいる。</p> <p><b>【読】</b></p> <p>プレゼンテーションを行うという目的を踏まえ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読んでいる。</p> <p><b>【言】</b></p> <p>目的に応じた文章の構成について理解する。</p>	<p>プレゼンテーションスキルを身に付ける学習プリントに取り組みさせる。</p>
3	習得	<p>これまで総合的な学習の時間に学んできた気仙沼の水産業や食文化、歴史なども含め、様々な本や資料などから町づくりに関わる情報を集める。</p> <p>収集した情報を整理して発表内容を考える。</p> <p>プレゼンテーションの構成を知る。</p> <p style="text-align: right;">「融合」レベル1</p>	4	<p><b>【読】</b></p> <p>目的に応じて、本や資料などから複数の情報を集め、分類して読んでいる。</p> <p><b>【話・聞】</b></p> <p>調べて分かったことや考えたことを分類して、発表の内容や必要な資料を考え、話している。</p>	<p>新聞記事を使った自主学習に取り組みさせる。</p>
	習得	<p>提案のよさが伝わるように聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方について考える。</p> <p style="text-align: right;">「拡大」レベル2</p> <p style="text-align: right;">「融合」レベル2</p>	1 本時	<p><b>【話・聞】</b></p> <p>よくないモデルを見て改善が必要な点を指摘し、その改善策を考える。それを基に提案のよさが伝わるプレゼンテーションの仕方を理解する。</p>	<p>全員共通の資料を使って資料のプレゼンテーションの仕方を考える自主学習に取り組みさせる。</p>
4	活用	<p>グループごとにプレゼンテーションを行い、提案の内容や発表の構成について感想を述べ合ったり、助言し合ったりする。</p> <p style="text-align: right;">「拡大」レベル2</p> <p style="text-align: right;">「融合」レベル2</p>	3	<p><b>【話・聞】</b></p> <p>聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図を捉えて自分の意見と比べながら発表を聞いたりしている。</p>	<p>・新聞記事を使った自主学習に取り組みさせ、気仙沼の時事問題に関心を持つようにさせる。</p>

	気仙沼復興ミニサミット で自分たちが考えた気仙沼 の未来についてのプレゼン テーションを発表する。 「拡大」レベル3	<b>【読】</b> 複数の情報を生かしたプ レゼンテーションを読むこ とができる。	
--	--	---	--

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

よくないモデルを見て改善が必要な点を指摘し、その改善策を考える。それを基に提案のよさが伝わるプレゼンテーションの仕方を理解する。 【話す能力・聞く能力】

### (2) 指導の手立て

- ① 聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方に気付かせるために、教師側からプレゼンテーションの「よくないモデル」を提示し、改善点を考えさせる。 【視点1ーイ】
- ※「よくないモデル」とは、情報量が多すぎたり、資料を見せるタイミングが遅かったりするなど、提案のよさが伝わりにくいプレゼンテーションである。本時は、総合的な学習の時間で行った気仙沼弁当作りのことについて取り上げ、動画で作成する。
- ② 聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方に気付かせるために、対話的な学びのモデル図の「拡大」と「融合」に重点を置き、自分の考えを見直したり、他者に伝えたりする場面を確保する。 【視点1ーイ】

### (3) 準備物

- ① 教師 「よくないモデル」の動画、モデル提示用の機器
- ② 児童 教科書、ノート

### (4) 学習過程 (別紙1)

### (5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
話す能力・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくないモデルを見て改善が必要な点を指摘し、ワークシートに書いている。また、その改善策を考えている。</li> <li>・対話を踏まえ、よいプレゼンテーションのポイントをワークシートにまとめている。</li> </ul>

### (6) 板書計画 (別紙2)

別紙1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】 (方法) ・準備物等
つかむ・見通す       5分	1 前時までの学習を振り返る。	一斉	◎前時で学習したプレゼンテーションの構成を振り返りましょう。 ・教科書p. 142の構成を確認する。  ◎聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションをするにはどうしたらいいのかな。 ○図や表を使うといいと思う。 ○資料の使い方とかも考えた方がいいと思う。 ○話題や内容がそれないようにするいいと思う。	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け  ・プレゼンテーションの構成として ①初めの言葉 ②調べたことについての報告 (参考にした事例, 現状の問題) ③グループの提案 という組合せがあることを, 教科書p. 142を見せて振り返らせる。  ・構成だけを意識して発表するのではなく, 聞き手を意識したプレゼンテーションをするにはどうしたらよいかと問い掛けながら本時の課題設定につなげる。	【評価】 (方法) ・準備物等
	2 本時の学習課題を設定する。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     提案のよさが伝わるようなプレゼンテーションの仕方について考えよう。                 </div>		
	3 教師が準備したプレゼンテーションを見る。	一斉	□これから, 先生が準備した未来の気仙沼についてのプレゼンテーションの映像を見せます。いくつかダメなところのある, よくないモデルです。映像を見て, 先生に思い切りダメ出ししてください。	◇聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方に気付かせるため, 教師側からプレゼンテーションの「よくないモデル」を提示し, 改善点を考えさせる。 <b>【手立て①】</b>	・プレゼンテーションの映像

4 提案の良さが伝わるようなプレゼンテーションについて考える。  
 (1) 自分で考える。

(2) グループで話し合う。

「拡大」レベル2

友達の見方や考え方を生かして自分の意見や考えを見直す。

個  よくないモデルの映像を見て、気付いたダメな点をワークシートの表に書きましょう。

班  グループで話し合います。  
 自分の考えを発表し、グループで表を完成させましょう。  
 プレゼンテーションソフトの文字数が多かったよね。  
 文字数を少なくして大事なところだけを書くといいよね。  
 あと、話題もそれっていたような…。

- よくないモデルの問題点
- ① 文字が多過ぎて理解しにくい。
- ② 写真資料ばかりで何について説明したいのか分からない。
- ③ 話題からそれている。 等

◇ 聞き手を意識したプレゼンテーションの仕方に気付かせるために、対話的な学びのモデル図の「拡大」と「融合」に重点を置き自分の考えを見直したり他者に伝えたりする場面を確保する。  
**【手立て②】**

**【話・聞】**  
 よくないモデルを見て改善が必要な点を指摘し、ワークシートに書いていたか。また、その改善策を考えているか。  
 (ワーク, 発言)

ダメな点	改善策	
・ 聞き手を見ていない。話し方が速すぎる。	・ 相手の目を見て、ゆっくり話す。	
・ 文字が多過ぎて何を伝えたいのか分からない。	・ 大事な部分だけを簡条書きなどにして表す。	
・ 写真が多くてどの写真についての説明なのかが分からない。	・ 必要な写真だけを提示して、必要の無いものは提示しない。	

(3) 全体で共有する。

「融合」レベル2

互いの思いを反映させ、意見や考えを一つあるいは幾つかにまとめる。

全体

- グループで話し合ったことを全体で伝え合ひましょう。
- 文字数が多すぎて分かりにくい。
- ◎どう改善すればいいかな。
- 大事なところだけ提示する。
- ◎具体的にはどこを書く。

◎どんな工夫があると提案のよさが伝わるプレゼンテーションになりますか。

- ・それぞれのグループで考えたダメな点や改善点を発表させ、全体で「提案の良さが伝わるプレゼンテーション」のポイントをおさえるようにする。
- ・必要があれば映像を再生して確認する。
- ・代表者の発言に切り返しの問いを行いながら話し合いを進め、ポイントとしてまとめていく。

ダメな点	改善策	ポイント
・聞き手を見ていない。話し方が速すぎる。	・相手の目を見て、ゆっくり話す。	・聞き手を意識した話し方をする。
・文字が多すぎて何を伝えたいのか分からない。	・文字数を少なくして大事なことだけ提示する。	・資料提示の仕方を工夫する。
・写真が多くてどの写真についての説明なのかが分からない。	・必要な写真だけを提示して、必要の無いものは提示しない。	・資料提示の仕方を工夫する。
・話題がそれてしまい、関係の無い事まで話している。	・話題がそれないように発表原稿をしっかり作る。	・適切な情報を使う必要がある。

【話・聞】

対話を踏まえて、よいプレゼンテーションのポイントをワークシートにまとめているか。  
(ワーク、発言)



<p>確 か め る</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>個</p>	<p>◎今日の学習を振り返り，友達との意見 交流で気付いたことや分かったことを 書きましょう。 □書いたことを発表してください。</p>	<p>・グループや全体での対話によって 自分の考えが広がったり，深まっ たりしたことを書いている児童を 取り上げ，本時の学習の成果を実 感できるようにさせる。</p>	
<p>5 分</p>	<p>6 次時の学習を知る。</p>	<p>一斉</p>		<p>・次時は，本時で学んだことを生か しながらプレゼンテーションの準 備をすることを知らせる。</p>	

別紙2 (板書計画)

☆  
振り  
返り

ダメな点	改善策	ポイント
・文字が多すぎて、早口で話しているので分かりにくい。	文字数を少なくして大事なところだけを提示し、ゆっくりと話す。	・聞き手を意識した話し方をする。
・写真が多くて、どの写真についての説明なのかが分からない。	・必要な写真だけを提示して、必要のないものは提示しない。	・資料提示の仕方を工夫する。
・話題がそれてしまい、関係のない事まで話している。	・話題がそれないように発表原稿をしっかりと作る。	・適切な情報を使う必要がある。

① ○ ▲  
改善策 ダメな点

② 提案の良さが伝わるようなプレゼンテーションの仕方について考えよう。

町の幸福論

# 第1学年1組 国語科 学習指導案

場 所 1年1組 教室

指導者 教諭 熊谷 美幸

## 1 単元名 「いろいろなおはなしをよもう『おとうとねずみチロ』」

### 2 単元について

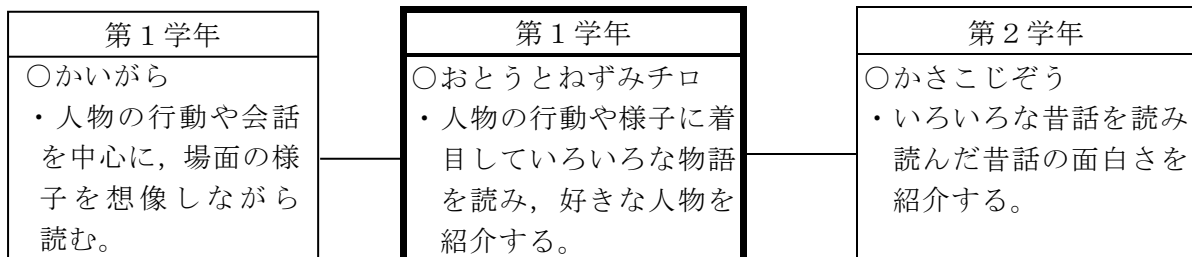
#### (1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年「C読むこと」の内容(1)「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」及び、「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」を受けて設定した。

本教材は、おばあちゃんからのチョッキを楽しみに待つ弟ねずみ「チロ」の行動や気持ちを中心に書かれた物語である。時や場所の変化による場面の展開も分かりやすく、「チロ」の行動も捉えやすい。「チロ」の行動や会話には気持ちの変化が素直に表れていて、人物の様子を想像しながら読むのにふさわしい教材である。また、学校の中で学年が一番下の1年生にとって、兄弟の中で一番下の「チロ」と自分自身を重ね合わせ、共感しながら読むことができる教材文でもある。

児童はこれまでに、物語文がいくつかの場面でできていることや、物語文を読むときに、どんな人物がどんなことをしたかを考えて読むことを学習してきた。「おおきなななぶ」(7月)では、教材文には書かれていない登場人物のせりふを、挿絵の表情や場面の様子を手掛かりにして考える活動を通して、物語の展開を楽しむ力を身に付けた。また、「かいがら」(9月)では、登場人物の様子や会話に着目して、話の内容を捉えたり、ペア学習で友達との考えの比較をし、全体で共有することを通して、読みを深める学習を積み重ねてきた。単元の終末には、自分のお気に入りの本を選び、好きなところを簡単に伝え合う活動に取り組み、様々な物語文の世界を楽しんできた。

ここでの学習は、第2学年のいろいろな昔話を読み、読んだ昔話の面白さを紹介する「むかしばなしをしようかいしよう『かきこじぞう』」の学習へとつながっていく。本単元では、登場人物の心情の変化が捉えやすい本を複数読み、友達に「紹介カード」を書いて発表する活動に取り組み。この活動により、物語をより深く読み味わい、自分の考えを深める力を付けることで、登場人物の行動や会話に着目させ、好きな登場人物に焦点を当てて物語文を紹介する活動に取り組みせたい。



## (2) 児童の実態 (男子10名 女子7名 計17名)

本学級の児童は読書が好きで、学級文庫や図書室を進んで利用し、普段から様々な物語文に親しんでいる。担任や図書ボランティアの方々による業前活動での読み聞かせを楽しみにしている児童も多くいる。物語を読んで、中心人物は誰か、どんな話だったのかなど感想を書く力も1学期に比べると少しずつ身に付いてきた。

国語科の学習に関する意識調査(9月実施)では、7名が「国語の学習は好きではない」と答え、読んだり書いたりする活動に苦手意識を持っている児童が多いことが分かった。自分の考えをうまく文章に書き表すことが苦手な児童が見られる。また、教科書からうまく読み取ることが出来ない児童も多い。

そこで、机間指導での声掛けや友達との意見の共有を図ったり、授業の中で意図的指名を取り入れたりしながら、自分の考えに自信を持たせ、発表の価値付けにつながるようにしていきたい。また、「目当てが分かって取り組んでいる」と答える児童は11名となっており、学習計画表を活用し、目当てを意識して学習を積み重ねてきた成果だと考えられる。家庭学習との関連では次時で学ぶ場面の登場人物の気持ちを想像して「ミニお手紙」を書くことで、児童が導入の際に場面の大体の様子を捉えやすくなった。また、考えを深める場面で発表することで考えが思い浮かばない児童にとって、考えを書ける手立てとなっている場面も見られた。家庭学習が授業で有効に活用できるように、課題の与え方を工夫していきたい。

## (3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

### 【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 本時の場면을導入時に捉えやすくするために、家庭学習での取組を課題設定の場面で活用する。
- イ 様々な表現に着目させ、中心人物に対する読みを深めるために、対話的な学びのモデル図の「比較」に重点を置き、読み取ったことや感じ取ったことを伝え合わせる場面を確保する。
- イ ペア学習のときに友達と自分の考えを比較し、同じところや違うところを見つけながら自由な雰囲気では話合いができる手掛かりとさせる。
- ウ 単元を通して中心人物の行動や様子に着目して読み進めるために、各場面での中心人物の好きなところを「好きポイント」として付箋を全文掲示に貼りためていく。

### 【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

- ア 人物の気持ちを読み取る面白さを実感させるために、活用の場として図書ボランティア「あいの会」の方々に紹介カードを発表するという活動を設定する。
- イ 物語文の世界に浸らせ、登場人物の気持ちに寄り添うことができるように、「チロの好きなところ」を書く家庭学習を取り入れ、単元のまとめに生かす。

## 3 目標

### (1) 単元の目標

人物の行動や様子に着目していろいろな物語を読み、人物の好きなところを伝えることができる。

## (2) 観点別目標

観 点	目 標
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の行動や会話に着目して読み、そのときの様子や気持ちを想像しながら読もうとする。</li> <li>いろいろな物語を読んで、好きな人物を紹介したり、音読発表会をする活動に意欲的に取り組もうとする。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の行動や会話に着目して読み、想像した気持ちをノートに書くことができる。</li> <li>好きな登場人物を紹介するカードに書くことができる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物がしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを考えながら読むことができる。</li> <li>いろいろな本を読み、友達に紹介するための本を選ぶことができる。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想を伝える様々な言葉があることに気付くことができる。</li> </ul>

## 4 指導と評価の計画（11時間扱い 本時 6 / 11時間）

次	主 な 学 習 活 動	時間	評 価 規 準	家庭学習との関連
1	習得 初発の感想を生かして学習計画を立てる。 「比較」レベル1	1	【関】 読み聞かせを楽しんで聞き、興味を持って学習に取り組んでいる。	第1場面を読み「チロ」の好きなところを書いてくる。
	習得 身を乗り出して手紙を見る「チロ」の様子を想像しながら読む。 「比較」レベル1	1	【読】 身を乗り出して手紙を見ている「チロ」の行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。	第2場面の前半を読み、「チロ」の好きなところを書いてくる。
	習得 外へ飛び出し、丘のてっぺんの気へ登っていく「チロ」の様子を想像しながら読む。 「比較」レベル1	1	【読】 外へ飛び出し、丘のてっぺんの木へ登っていく「チロ」の行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。	第2場面の後半を読み、「チロ」の好きなところを書いてくる。
	習得 飛び跳ねて喜んだり、じっと耳を澄ましたりする「チロ」の様子を想像しながら読む。 「比較」レベル1	1	【読】 跳びはねて喜んだり、じっと耳を澄ましたりする「チロ」の行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。	第3場面を読み、「チロ」の好きなところを書いてくる。

	習得	おばあちゃんからチョコッキが届き、うれしそうな表情の「チロ」の様子を想像しながら読む。  「比較」レベル1	1	【読】 おばあちゃんからチョコッキが届き、うれしそうな表情の「チロ」の行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。	第4場面を読み、「チロ」の好きなところを書いてくる。
	習得	チョコッキが届いた後、お礼を2回言った「チロ」の様子を想像しながら読む。  「比較」レベル1	1 本時	【読】 チョコッキが届いた後、お礼を2回言った「チロ」の行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。	読み取ってきたことを基に一番好きな場面を決めてくる。
	活用	「チロ」の好きなところを書き、友達と伝え合う。  「融合」レベル1	1	【書】 「チロ」の好きなところをまとめて書くことができる。 【言】 感想を伝える様々な言葉があることに気付くことができる。	
2	習得	並行読書してきた物語の自分が好きな登場人物についてまとめる。	1	【書】 並行読書してきた物語の好きな登場人物についてまとめて書くことができる。	「紹介カード」を書く練習をする。
3	活用	自分が好きな本を紹介するために「紹介カード」を書く。	1	【書】 「紹介カード」を書くことができる。	授業で書いた「紹介カード」を読んでくる。
	活用	発表会に向けてペアで発表の練習をする。  「拡大」レベル1	1	【読】 聞きやすい発表の仕方を考えながら発表することができる。	家族を相手に発表の練習をしていく。
	活用	図書ボランティア「あいの会」の方々を招待して「紹介カード」を使った発表をする。  「拡大」レベル1	1	【関】 発表の仕方を意識しながら、発表会に意欲的に取り組もうとしている。	

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

おばあちゃんに呼び掛けたときのチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。 【読む能力】

### (2) 指導の手立て

- ① 本時の場面を導入時に捉えやすくするために、家庭学習での取組を課題設定の場面で活用する。 【視点2-イ】
- ② 中心人物の心情を深く読み取らせるために、ペア学習の際に対話的な学びのモデル図（「比較」レベル1）に沿って友達の考えと同じところや違うところを見付けさせる。 【視点1-イ】
- ③ 学びの深まりを実感させるために、学習の導入とまとめで中心人物の好きなところに付箋を貼らせ、視覚的に分かりやすくする。 【視点1-ウ】

### (3) 準備物

- ① 教師 教科書の全文掲示、学習計画表、付箋、座席表
- ② 児童 教科書、学習ノート

### (4) 学習過程（別紙1）

### (5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
読む能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・「チロ」が喜んでいることが分かるように強弱を付けたり間を空けたりして音読している。</li><li>・「あ、り、が、と、う。」に込められているチロの気持ちを読み取り、想像したことを友達に伝えている。</li><li>・第4場面で丘に駆け上る「チロ」の気持ちを、物語前半の不安でいっぱいだったときの気持ちと比較して違いを述べている。</li></ul>

### (6) 板書計画（別紙2）

別紙1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】(方法) ・準備物等
つかむ・見通す  5分	1 本時の学習課題を設定する。	一斉	◎今の先生の読み方じゃあ喜んでい る感じが伝わらないよ。 ◎もっと気持ちを込めて読まない とだめだよ。 □「チロ」が喜んでい ることが分かるようにみんな で「チロ」の言葉を読みま しょう。 □今日は続きの場面です。昨日の 家庭学習で考えてきた、登場 人物の好きなところに付箋を 貼りましよう。	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け ・前時の場面 (p.71,1.3~1.10) を 意図的に感情を込めずに範読 する。 ・範読を聞いた児童の感想を取 り上げ、前時の場面では「チ ロ」が喜んでいたことを想 起させる。 ・前時までの全文掲示には「だ あいすき」という「チロ」の 言葉に付箋が多く集まってい たことを確認する。 ◇家庭学習での取組を課題設定 の場面で活用して、本時はど のような場面なのかを導入時 に確認する。 【手立て①】	・全文掲示 ・学習計画表 ・前時の宿題 ・付箋
解決する  32分	2 第4場面を読む。 【p.72,1.1~1.10】 (1) 範読を聞く。	一斉	□付箋を貼ったところ以外にも 「チロ」が喜んでい ることが分かる ところはありま せんか。先生が 読むのを聞いて 探しましよう。 ○「ありがとう」を 言う場面は喜ん でい るね。 ○しかも2回も言 ってるよ。 ○2回目の先生の 音読、1回目よ りも いいね □2回目の音読の どこがよ かった ですか。 ○「チロ」が喜ん でい ることが分かる ように工夫して いま した。 ○「かけのぼりま した」の読み方 が よ かった です。	・範読する前に数名の児童にど んな「チロ」の様 子が好きなのか を話させ、喜ん でい るチロの様 子 がかわいらし かったことを確 認する。 ・数名の児童に 「チロ」が喜ん で い ると分かる ところを挙げさ せる。 ・範読は2回行 い、2回目は文 中の「さっそく」 「かけのぼりま した」「さけび ました」「ゆっ くり」「あ、り、 が、と、う」に 着目させるよう に強弱を付け たり間を空け たりして読む。	

チョッキがとどいたあとの、「チロ」のすきなところをもっとみつけよう。

□目当てをノートに書きましよう。



<p>(2) 音読をする。</p>	<p>個</p>	<p>●大きな声で聞きやすかったです。</p> <p><input type="checkbox"/> 今度は先生よりもじょうずにみんなに読んでもらいます。自分のペースで2回音読しましょう。</p> <p><input type="checkbox"/> ○○さん、みんなに音読を聞かせてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導しながら音読を聞き、「かけのぼりました」を強調して読んでいる児童を探して指名する。</li> <li>・p.72,1.1~1.3を数名の児童に音読させる。</li> </ul>	
<p>3 丘のてっぺんの木へ駆け上った「チロ」の気持ちを考える。</p>	<p>一斉</p>	<p>◎「かけのぼりました」とあるね。ただ上ったのとは違うんだね。「チロ」はどうして、丘のてっぺんの木へ駆け上ったのでしょうか。</p> <p>○ありがとうと、すぐに言いたかった。</p> <p>○うれしくて叫びたかった。</p> <p>○おばあちゃんにお礼を言いたかった。</p> <p>●てっぺんに行きたかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い付かない児童には、「のぼる」と「かけのぼる」を他の児童に動作化させて示し、駆け上る「チロ」の気持ちを想像させる。</li> </ul>	
<p>4 チロの様子や気持ちを想像しながらペアで音読をする。</p>	<p>一斉</p>	<p><input type="checkbox"/> みんなが考えた「チロ」の気持ちを込めて読みましょう。</p> <p>○「かけのぼりました」の読み方がさっきよりもよくなったと思う。</p> <p>○最後の「あ、り、が、と、う」の読み方もいいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下側の児童が先に読み、続いて窓側の児童が読むように指示する。</li> <li>・音読が苦手な児童に寄り添い、友達の音読に対する感想を言わせるようにする。</li> </ul>	<p>【読】 「チロ」が喜んでいることが分かるように強弱を付けたり間を空けたりして音読しているか。 (音読の様子)</p>
<p>5 チロはどのようなことを考えながら、おばあちゃんに「あ、り、が、と、う。」と言ったのか考える。 (1) 自分の考えを書く。</p>	<p>個</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◎「チロ」はどうして、消えるのを待ってからもう一度ありがとうと言ったのでしょうか。</p> </div> <p><input type="checkbox"/> 考えをノートに3行くらいで書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童が2回目の「ありがとう」を工夫して読んでいることを取り上げ、主発問につなげる。</li> <li>・児童がノートに記述したことを取り上げながら称賛し、「チロ」の気持ちを想像することができ</li> </ul>	

(2) ペアで考えを伝え合う。ペア

「比較」レベル1

友達の意見や考えについて共通点や相違点を見いだす。

(3) 全体で共有する。

ペア

- どうしても伝えなかった。
- 絶対届けたい。
- すごくうれしかった。
- 届いたか確認したかった。
- おばあちゃんのためにゆっくり言った。

- ペアで考えを伝え合い、友達の意見と同じところや違うところを見付けましょう。
- 友達の考えと同じところは赤、違うところは青で囲みましょう。
- 「どうしても」や「ぜったい」は、似ている。
- すごくうれしかったという考えは、自分とは違うけどいいね。
- 届いたのか確認したかったという気持ちは自分の考えとは違っていておもしろい。

一斉

- 「チロ」の気持ちをどのように考えたのかを発表してください。
- 私は、どうしても伝えたいから2回言ったと思いました。
- 絶対届けたいというところが、Aさんのどうしても伝えたいという言葉と似ていました。
- △△さんと違って、聞こえたのが不安になって2回言ったのだと思いました。
- 絶対届けたいと書いたけど、○○さんの、嬉しくなってもう一度言いたくなったという考えもいと

- ない児童にヒントを与える。
- ・「チロ」のうれしさが駆け上る様子に表れていることを全員に捉えさせるようにする。

- ◇中心人物の心情を深く読み取らせるために、ペア学習の際に対話的な学びのモデル図（「比較」レベル1）に沿って友達の考えと同じところや違うところを見付けさせる。【手立て②】

【読】

チロの気持ちを読み取り、想像したことを友達に伝えていくか。（対話の様子）

- ・はじめに似ているところ（赤鉛筆での囲み）が多かったペアに指名し、次に違うところ（青鉛筆での囲み）が多かったペアを指名する。
- ・2回目の「ありがとう」にもチロのうれしさが込められていることを全員に捉えさせる。
- ・児童の発言内容をキーワードで黒板に書き出していく。

	6  まとめの音読をする。 【p.72,1.1~1.10】		<p>思いました。</p> <p>●おばあちゃんが聞こえないからゆっくりに言ったと思いました。</p> <p>□今日の勉強で考えた「チロ」の気持ちを想像しながら読みましよう。</p>	<p>・物語前半の心配だったチロ、一番大事なことを叫んで安心した「チロ」の様子と対比させ、うれしい気持ちを捉えさせる。</p>	<p>【読】 第4場面で丘に駆け上る「チロ」の気持ちを、物語前半の不安でいっぱいだったときの気持ちと比較して違いを述べているか。 (児童の発言)</p>
確 か め る	7  学習を振り返る。	個	<p>□「チロ」の気持ちを想像しながら読むことができましたね。好きなところが増えた人や変わった人は付箋を増やしたり移動したりしてください。</p> <p>□○○さん、発表してください。</p> <p>○私は「ありがとう」にだけ付箋を貼っていたけど、「チロ」が木にかけのぼるところにも貼りました。理由は△△だからです。</p> <p>○友達の話を聞いて「チロ」の好きなところが増えました。</p>	<p>◇学びの深まりを実感させるために、学習の導入とまとめで中心人物の好きなところに付箋を貼らせ、視覚的に分かりやすくする。 【手立て③】</p> <p>・友達の考えを聞いて自分の考えが変わったり深まったりしたことについての発言があればそのペアの学習活動を称賛する。</p>	
8 分	8  次時の学習を知る。	一斉	<p>□次は「チロ」の一番好きな場面を考えます。</p> <p>□家庭学習では、今まで学習した中で「チロ」の一番好きな場面を決めてきて下さい。</p>	<p>・次時は「チロ」の一番好きな場面についてみんなで考えることを伝える。</p>	


別紙2 (板書計画)

とどいたか しんばい。  
すごくうれし  
かった。  
とどけたいに  
ぜったいに  
つたえたい。  
どうしても

チロはどうして きえるのを  
まっから、もういちど「ありがとう。」  
と いったのでしょうか。

おれいをいいたい。  
すぐにいいたい。  
うれしくて、さけび  
たい。

チロはどうして、おかのてべん  
の木へ かけのぼったのでしょうか。



だあいすき。  
おばあちゃんに  
とどいた。

④  
おとうとねずみ チロ  
チョコキがとどいたあ  
との、チロのすきなとこ  
ろをもっとみつけよう。

II がつ II にち ついたら むく 木 ようび

## 第5学年1組 総合的な学習の時間（海洋教育）学習指導案

場 所 西校舎2階自学室  
指 導 者 教諭 渡邊 一磨

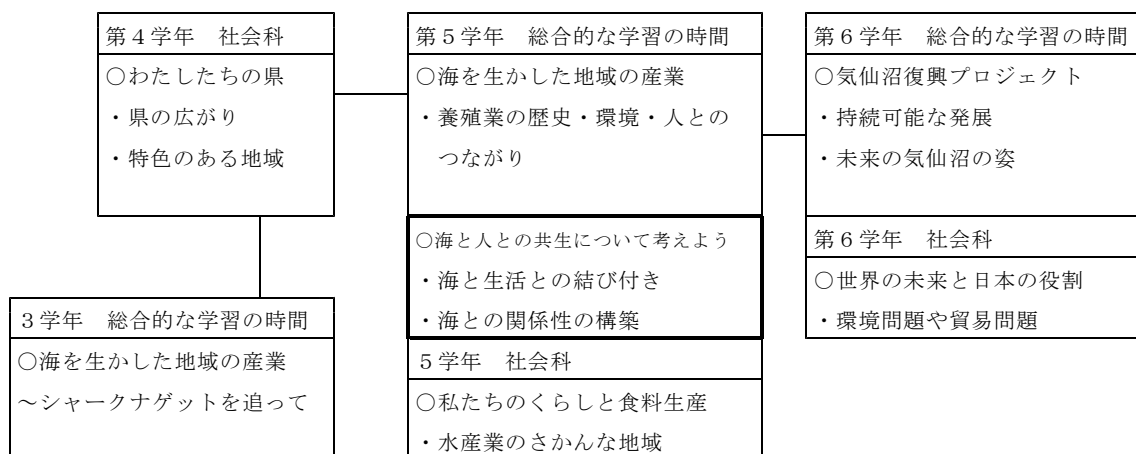
### 1 単元名 「海と人との共生について考えよう」

### 2 単元について

#### (1) 探究課題について

本単元は、新学習指導要領の趣旨を受けて、新たに定めた本校の総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、産業、防災、福祉など地域の特徴やよさ、課題に関する横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために以下の資質能力を育成する。(以下省略)」を受けて設定した。また本単元は、本校の海洋教育の全体目標「海の環境や資源、海を取り巻く人や社会とのつながりについて関心を高め、海と共生しようとする考え方と行動力を身に付けた児童を育成する」ための5学年の柱となる単元でもある。

日本は国土を海に囲まれていることから、古くから海との関わりが深く、水産資源など豊かな海から多くの恩恵を得てきた。水産業を基幹産業とする気仙沼市の復興のスローガンも「海と生きる」である。そのため、本校の総合的な学習の時間の教材は海に関わるものが中心になっている。児童は3学年では、サメを題材にサメの加工品について調べ、生産者の思い、願いに触れたりして、地形や風土を生かした産業について考えた。4学年では、防災教育の視点から沿岸部では避けて通れない地震・津波への備えについて学んだ。一步進めて5学年では、共に生きる運命共同体である海について、その豊かさとともに直面している問題を自分の切実なこととして考え、その解決策を海と人との共生という観点から探究的に学習していく。このように海と生きる気仙沼の子どもの認識を形成することは、持続可能な社会の実現に主体的に参画しようとする態度の育成にもつながると考える。



#### (2) 児童の実態 (男子22名 女子11名 計33名)

本学級の児童は、真面目で学習に対して積極的に取り組むことができる。新しい知識や技能を身に付けることにも意欲的である。特に観察や実験、調査の活動に興味を

持ち、意欲的に活動する姿が見られる。ただ、その一方で、観察や実験、調査からどのようなことが分かったのか整理して考えたり、学習したことをまとめて発表したりすることを苦手とする児童が多い。また、グループでの活動では積極的な児童の考えをそのまま受け入れてしまい、集団の中で埋没している児童も見られる。

本校の学区は気仙沼港の周りに位置しているが、水産業に従事する保護者は少なく、海の近くの学校であるが、児童にとって海は身近なものとは言えない。そのため、児童には「気仙沼市は海のまち」という意識はあるものの、そのよさや問題を具体的には理解していない。海洋教育に関する意識調査（9月実施）では、90%の児童が海洋に関する学習を好んでおり、気仙沼市の水産業について関心のある児童も多い。

1学期の総合的な学習の時間では、養殖業についての学習を行い、気仙沼市の地形や環境を生かした養殖業について考えることができた。

### (3) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

#### 【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 社会科や理科等の他教科と関連付けながら学習を進めることで課題を多面的・多角的に見つめられるようにする。
- ア 問題意識の掘り起こしと課題への気付きを促すために、単元前半に体験活動や見学を位置付ける。
- イ 気付きや疑問を友達との対話を通して共有させるために対話の視点や、話し合う観点を明確にさせる。
- イ 気付きや疑問を対話を通して比較したり広げたりするためにウェビングやKJ法、ワールド・カフェなどの手法を取り入れる。

#### 【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

- ア 一人一人に個別の探究課題を設定させ、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現することができるようにし、個々の学びを保障する。
- ア 写真や映像、ゲストティーチャーを積極的に活用したりすることによって、海についての関心を高めさせ、意欲的に活用できるようにする。
- ア 学習してきたことを整理し、「海と人との共生」について自分なりの思いを表現する場として単元終末に、海洋ミニサミットを行う。
- イ 海への関心を高めたり、自己の探究課題について意欲的に調べさせるために、海に関する新聞記事や、気仙沼市の水産業に関する刊行物や資料を与え日常的に調べさせる。

## 3 目標

観 点	目 標
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海と人との共生を図ろうとする気仙沼市が抱える諸課題が、身近な地域のみならず、地球規模での自然及び社会環境の変化等と密接かつ多角的・多面的に関連していることを理解することができる。</li> <li>・海と人との共生を図るための探究課題を解決するために必要な直接体験による聞き取り、資料収集・整理・分析等の技能を身</li> </ul>

	に付けることができる。
思考力・判断力・ 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と海が今後も継続して共生していくために何が必要なのかを学んだことを基に自分なりに考え表現することができる。</li> <li>・海と人との共生を図るために立てた自己の探究課題についてのまとめを、学校内外の人々に広く分かりやすく情報発信することができる。</li> </ul>
学びに向かう力・ 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の探究課題の解決のため、学校内外の様々な他者と協働しながら、主体的に取り組もうとする。</li> <li>・海と人との共生を図るために自己の生活を見つめ直すとともに学校内外の様々な他者と協力的に関わろうとする。</li> </ul>

#### 4 指導計画（37時間扱い 本時 15 / 38時間）

次	主な学習活動	時間	評価規準	家庭学習との関連
1	習得 活用 気仙沼市の近海・遠洋漁業の現状を知るため、気仙沼魚市場を見学する。 見学の感想と近海・遠洋漁業の現状についてまとめる。  「拡大」レベル2	3	<b>【知】</b> 多様な魚種が、全国各地からの漁船及び国内外の漁船員によって水揚げされていることを理解することができる。 <b>【思】</b> 見学で気付いたことや考えたことを比較、分類して自分の考えを見直すことができる。	見学の感想をまとめる。 海に関するニュースや新聞記事等を集める。 気仙沼市の水産業に関する刊行物や資料を読む。 これまでの比較したり分類したりしてきた内容を整理し、印象に残ったことをまとめる。
	習得 活用 遠洋漁業の現状や諸課題を知るために、遠洋漁船内を見学する。 見学の感想と遠洋漁業が抱える諸課題についてまとめる。  「拡大」レベル2	3	<b>【知】</b> 様々な要因で安定した水揚げ量の確保が困難になってきている中で、遠洋漁船の工夫や努力を理解することができる。 <b>【思】</b> 見学で気付いたことや考えたことを比較、分類して自分の考えを見直すことができる。	
	習得 活用 水産加工業及び流通に関する現状や諸課題を知るために、水産加工工場を見学する。 見学の感想と水産加工業が抱える諸課題についてまとめる。	5	<b>【知】</b> 様々な要因で水揚げ量や魚種等の変化に対応するための水産加工及び流通の工夫や努力を理解することができる。	

				【思】 見学で気付いたことや考えたことを比較、分類して自分の考えを見直すことができる。	
	習得活用	水産業の現状及び海洋環境向上のための市の取組を理解するため、市水産課の方を招き、話を聞く。  「拡大」レベル2	2	【知】 海と人との共生を図ろうとする市の取組や課題を理解することができる。	
2	活用	これまでの見学及び聞き取りを基に、海と人との共生に迫るための諸課題について整理する。  「比較」レベル2 「選択」レベル2	1	【知】 海との共生に関わる諸課題について整理することを通して、自己の探究課題設定のための方法を考えることができる。	自己の探究課題を何にするか考える。 研究計画シートを記入する。
	活用	海と人との共生を図るため、自己の探究課題を立てる。  「拡大」レベル2	1 本時	【知】 探究課題解決に向けた見通しを持つことができる。 【思】 これまでの学習を基に、自己の探究課題を立てることができる。	
3	習得活用	自己の探究課題を調べる。中間発表会に向けて発表の内容をまとめる。	9	【知】 自己の探究課題を解決するため資料収集・整理・分析等及び発表準備を行うことができる。 【学】 友達と助言や励ましをしながら、探究課題を解決しようとする。	海に関するニュースや新聞記事等を活用する方法を考えてくる。
	活用	中間発表会を行う。 「比較」レベル2  中間発表会等を基に、自己の探究課題や解決の仕方について確認する。	5	【思】 自己の探究課題解決のまとめを分かりやすく伝えることができる。 互いの発表等を基に、各自の探究課題を比較、分類し、自己の探究課題について再検討することができる。	



				【学】 再検討した自己の探究課題を解決しようとする。	
4	習得活用	再検討した自己の探究課題について調べ直しをする。 海洋ミニサミットに向けた発表準備を行う。	6	【知】 再検討した自己の探究課題を解決するため資料収集・整理・分析等及び発表準備を行うことができる。 【学】 友達と助言や励ましをしながら、再設定した自己の探究課題を解決しようとする。	海に関するニュースや新聞記事等を読んでくる。
	活用	これまで見学，聞き取りなどでお世話になった方々を招き，探究してきた成果を発表する「海洋ミニサミット」を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「融合」レベル3</div>	3	【思】 自己の探究課題解決のまとめを分かりやすく伝えることができる。 【学】 海と人との共生を実現しようとする。	

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ① 探究課題解決に向けた見通しを持つことができる。 【知識及び技能】
- ② これまでの学習の感想や気づきを整理・分析し，自己の探究課題を立てることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

### (2) 指導の手立て

似た課題意識を持った者同士でグループを作り話し合わせることで，個別の探究課題解決に向けた方策について多角的に考えられるようにする。 【視点1ーイ】

### (3) 準備物

- ① 教師 校外学習の様子（水産加工向上，マグロ船，魚市場等）の写真，研究計画シート，短冊，座席表
- ② 児童 学習ファイル，ノート

### (4) 学習過程（別紙1）

(5) 評価

観 点	おおむね満足できる (B)
知識及び技能	・ 探究課題について解決の見通しを持つことができる。
思考力・判断力・ 表現力等	・ これまでの学習の感想や気づきを整理・分析し、自己の探究課題を立てることができる。

(6) 板書計画 (別紙2)

別紙1 (学習過程)

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎), 指示 (□) 予想される児童の活動 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】(方法)・準備物等
つかむ・見通す 5分	1 前時までの学習を振り返る。	一斉	◎これまでどんなところに見学に行ったり, どんな方からお話を聞いたりしましたか。 ○魚市場見学をした。 ○水産課の方から, 産業に関する話を聞いた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場見学や魚市場見学を行った時の写真を提示し, これまでの学習過程を想起させる。</li> <li>見学を通して分かったことや集めた資料等を基に諸課題を解決してきたが, 今後は自分が追究していきたい課題を決め, 具体的な計画を立てて調べていく必要があることに気付かせ学習課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の様子の写真</li> </ul>
	2 本時の学習課題を設定する。	一斉	自分の追究していきたい課題を決め, 調べる計画を立てよう。		
解決する 35分	3 調べていきたいことを整理する。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>□これまでの学習を踏まえて考えた今後調べていきたい課題を短冊に書きましょう。</li> <li>○水産業に携わっている外国人。</li> <li>○マイクロプラスチックについて。</li> <li>○気仙沼市で加工された製品の流通について。</li> <li>○気仙沼市では海をどのように利用しているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短冊に書いたことを発表させ内容が似ていると考えた短冊に近付けてグルーピングさせる。</li> <li>ラベリングをする際は, 「海と人との共生」とのつながりについて問い掛けながら「共生」という学習テーマを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短冊</li> </ul>
	4 グループで話し合う。	班	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎できたグループに名前を付けましょう。</li> <li>○働く人</li> <li>○資源を守る</li> <li>○水産加工品</li> <li>○流通・販売</li> <li>○他の地域とのつながり</li> <li>○環境保全</li> </ul>		

	<p>「拡大」レベル2          友達の見方や考え方のよさを生かして自分の意見や考えを見直す。</p>		<p>これはいいと思ったことは青ペンで研究計画シートに書き加えましょう。</p> <p>&lt;例：働く人グループ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漁船に乗っている人の人数なら、「気仙沼の水産」で調べられると思うよ。</li> <li>○マグロ船や阿部長の工場働くインドネシアの方に直接聞いてみたい。</li> <li>○インドネシア以外の国からも実習生として気仙沼に来てるって。</li> <li>○漁船員募集のホームページを見たことがあるよ。</li> <li>○△△君のお父さんが漁業関係について詳しいってよ。</li> </ul>	<p>わせることで、個別の探究課題解決に向けた方策について多角的に考えられるようにする。</p> <p>【手立て①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①調べる方法（いつ、誰に、何を）②今のところの解決策について班で情報交換を行わせる。</li> <li>・これまで活用してきた資料や見学の際に使ったプリント等も活用して考えさせる。</li> <li>・話合いの内容や、研究計画シートの内容を見取り、話し合っても解決の見通しが見つからないものについては、全体に問い掛け考えさせる。</li> </ul>	<p>【思】          これまでの学習の感想や気づきを整理・分析し、自己の探究課題を立てることができたか。（研究計画シート・観察・発言）</p> <p>【知】          探究課題について解決の見通しを持つことができる。（研究計画シート・観察・発言）</p>
<p>5          確かめる          5分</p>	<p>5 話し合ったことを全体で共有する。</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎話し合って、参考になったことはどんなことですか。</li> <li>○取材先が分かった。</li> <li>○「それってすぐに分かるんじゃない」と言われました。課題を考え直してはだめですか。</li> <li>○△△さんの班は□□についても調べてみるといいのではないかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からの学習につながる記述をしている児童に指名し発言させる。</li> <li>・個別の課題を基に、調べ活動をしていくことを伝える。</li> </ul>	
	<p>7 次時の学習を知る。</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□本時の学習で考えたことをノートに書きましよう。</li> <li>○どのように調べていけばよいか分かった。</li> <li>○早く調べたいな。</li> </ul>		

別紙2 (板書計画)

海と人との共生について  
考えよう

自分の追究していきたい課題を  
決め、調べる計画を立てよう。

### 働く人

外国人の船員とどう 協力していくか。	
気仙沼と備前外国人との 関わりは多いか？	

### 資源

10月11日にいる 魚はどのくらいか。	サメやサメになる のを防ぐにはどうするか。
あじやさん魚を 食べたいのは？	
栄養塩を増やす方法 を教えてください。	取られる水やどうにか したいの？

### 加工

魚の鮮度を保つ新技 を探して調べる。	新しい加工品開発 をしてみたい。

### 環境

貝毒が増えたのは なぜか。	
マイクロプラスチックは 気仙沼の魚に影響があるか。	

### 他の地域

外国に輸出はして いるか。	

### 流通販売

気仙沼魚加工品の PRはしている？	

- ① いつ
- ② 誰に
- ③ 何を
- ④ 解決策